

平成 25 年度（2013 年度）



社会福祉法人 やおき福祉会

事業報告（案）

番号	事業所等	ページ数
①	法人事業	01～04
②	紀南障害者地域生活支援センター	05～07
③	ゆうあいホーム・ショートステイ・すてっぷはうす	08～17
④	ほわいとホーム	18～20
⑤	田辺市障害者ボランティア活動支援事業	21～25
⑥	訪問介護支援センター	25～26
⑦	陽だまり	27～30
⑧	か～む	31～32
⑨	ハモニティー	33～35
⑩	古道ヶ丘	36～39
⑪	本宮くまのこ作業所	40～42
⑫	こどうの家・第2こどうの家	43～44
⑬	龍の里作業所	45～47
⑭	いなづみ作業所	48～50
⑮	やおき工房	51～54
⑯	すまいる	55～58
⑰	みなべ鹿島ホーム、サンフラワー	59～60
⑱	紀南障害者就業・生活支援センター	61
⑲	地域活動支援センター	62
⑳	サンヒルズ・クローバー・オレンジ・ユースvii	63～64

法人事業報告書

平成25年度 やおき福祉会

1. 支援向上のための環境整備

利用者支援環境の向上を目的として、生活支援センター改編、白浜拠点での日中活動場所を目的にB型事業所「か〜む」の開所、やおき工房・ハモニティの改修、すまいるの改修を行った。

すまいるの新作業棟確保については、持ち越しとなり、懸案であった龍の里作業所の建築は年度末に助成金内定があり、次年度において実施する運びとなった。

居住分野では、鹿島ホームの老朽化等に伴う移転について、他事業所と連携しつつ全体のニーズ整理をすすめ、みなべ町内での物件確保・南紀の台ホームの開設に向けて準備をすすめた。

2. 病院からの退院支援、日中活動・夜間のサポート体制等連携等の強化

生活全般の相談、退院支援、福祉サービス等や日中活動の提供、就労支援、ホームでの居住支援、居宅支援など、法人として幅広い支援を提供しながら、包括的な視点から各事業の連携を密に行った。

3. 他職種との連携支援

地域自立支援協議会での活動に積極的に関与し地域資源の開発や協働を図った。また、個別事業所ごとに、利用者のニーズに合わせて、他法人・団体との連携により支援を行った。

4. 制度利用が困難な人の居住確保、保証人問題の検討

個別的な検討を行ったが、具体的な資源開発には至らなかった。

5. 一般就労

就業・生活支援センターを中心として連携を図り、一般就労に向けた検討・調整等について、より一層の推進を図った。

6. 所長会の機能化、法人経営の強化

所長会議に座長を置き、機能の充実を図るとともに、懸案課題については所長会で専門委員会（給与検討、防災、リスク管理）を設置し、密な検討を行った。

7. 相談事業・本部内の改装等、機能の円滑化

25年度から、相談センターと本部事務所が一体となり、相互機能の円滑を図る

ことを目的に検討を行ったが、予算の見通しがなく実施できなかった。

8. 法人内で実施する給食サービス事業の意義の共有化、実施要領の標準化
給食サービス事業については、一定の定着が図られてきたが、詳細部分や成長的な側面において、今後も利用事業所間で継続的な検討が必要である。

9. 新会計基準への対応

27年度の実施に向けて、研修等に参加をする等、一定の準備をすすめた。

10. 25周年記念企画の実施

25周年企画については、実施できなかった。

11. 防災対策委員会の取り組み

昨年度に引き続き、所長会議での防災対策委員会を開催し、各事業所の地域性を考慮した対策や災害への備えについて検討をすすめた。そのほか、事業所での事故等の頻発から小委員会を設置、リスクマネジメントの意識向上を目的としたアンケートや研修を実施した。

12. 給与規程、賃金規程等の見直し、法人独自の給与体系の確立

所長会議での課題検討、アンケートを実施し、小委員会の設置を図って、多角的な角度から移行への検討をすすめた。年度末において新俸給表を策定、職員全体への説明会を経て26年4月より実施予定となった。

13. 現場実践に沿った職員研修の充実、人材の育成

法人研修を定例で実施し、実践の質を高め、福祉職員としての人材育成に取り組んだ。また事業所の特性に合わせた研修への参加推奨を事業所ごとに実施した。

14. 法制度の確立運動

制度要望について国会署名活動に取り組んだ。また、個別課題について県や市町への制度要望を行った。

15. 後援会と連携、会員の拡充

後援会の行事に参加するとともに、会費の更新、拡充等に取り組んだ。

16. 広報

法人としてホームページ、やおきジャーナルにより広報を行った。

法人月別事業報告

平成25年度 やおき福祉会

月	役員会・監査等	広報活動(ジャーナル)	研修・その他
4	1 辞令交付式		
5	14 監事監査(会計・処遇) 18 評議員会・理事会 23 か〜む開所式	16 vol.60 発行	
6	12・14 理事長事業所訪問 13 理事会		
7	25 人事委員会 27 評議員会・理事会		1・2・5 法人職員研修 (新人)
8	22 人事委員会	26 vol.61 発行	
9	13 人事委員会		20 法人職員研修
10	11・28 人事委員会 26 評議員会・理事会		27 やおき職員交流会
11	12, 29 人事委員会		15 法人職員研修
12	13 理事会 17・25 人事委員会	8 vol.62 発行	
1	7・21・30 人事委員会 18 役員・所長新年会 25 正規職員任用試験		17 法人職員研修
2	22 評議員会・理事会 27 懲戒委員会 28 給与規程改定法人説明会		
3	3 人事委員会 22 評議員会・理事会	6 vol.63 発行	7 法人職員研修 20 法人研修(県伝達)

紀南障害者地域生活支援センター 事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

I. 全体の事業経過

相談センターの改編に伴い、本部併設として移転し、相談事業に限定した事業を行ってきたが、相談支援の種別が指定一般、指定特定、市町村委託相談に区分されているため、総合的な支援において、複雑な対応を求められた。こうしたなか、指定特定相談支援である「サービス利用計画の作成」については、福祉サービスを利用する全ての人を対象とすることが義務付けられた経過措置中間年であり、地域における事業所数と対象者数のアンバランスにより、サービス利用計画作成に追われる1年でもあった。このようなことから、法人全体のシステムとして、全事業所で計画作成を実施できる体制整備を行い、事業所に所属する利用者の計画を事業所で担い、新規利用者や他法人等から依頼のあった要計画者に絞った計画作成を実施できるようにした。

25 年度の事業種別と内容

事業種別	事業内容
指定特定相談支援	サービス利用計画の作成
指定一般相談支援	精神科病院からの地域移行支援
田辺市委託相談支援	田辺市の一般的な相談支援
白浜市委託相談支援	白浜町の一般的な相談支援

25 年度の相談支援体制

4 月～11 月		12 月～3 月	
管理者	1 名（兼務）	管理者	1 名（兼務）
相談支援専門員	3 名（専任 1 兼務 2）	相談支援専門員	6 名（専任 1 兼務 5）
		相談支援補助員	7 名（兼務 7）

IV. 事業別報告

(ア) 指定特定相談支援事業（計画相談）

①相談支援の形態

- (1) サービス利用支援（福祉サービス利用計画書の作成）：45名
- (2) 継続サービス利用支援（モニタリング） 69名

(イ) 指定一般相談支援事業（地域相談）

①相談支援の形態

- (1)地域移行支援サービス（退院支援） 3名
- (2)地域定着支援サービス（見守り、緊急対応等） 0名

(ウ) 田辺市委託相談支援事業（ゆめふる）

①相談の体制

田辺市では、市及び4法人の連携により、市民総合センター「ゆめふる」で総合相談を実施した。（専任相談支援専門員1名派遣）

②夜間・休日相談

転送電話により、可能な範囲で相談支援を実施した。

③居場所、休日開所

相談支援に伴う居場所づくりを目的に毎月、土曜開所を実施した。

④相談の実績（年間：4法人合計） (件)

自治体別	年齢別		障害別		相談形態別		相談内容別		
田辺市	4654	～9歳	49	身体	701	訪問	1325	サービス利用	1258
上富田町	155	～17歳	151	知的	1011	来所	815	障害や病状	638
白浜町	53	～29歳	815	精神	2592	同行	605	健康・医療	766
みなべ町	3	～39歳	873	発達	556	電話	1365	不安解消	762
すさみ町	39	～49歳	987	高次脳	54	メール	46	保育・教育	245
県内	50	～59歳	958	その他	258	会議	114	家族・対人	513
県外	14	～64歳	531			関係機関	867	家計・経済	716
その他	81	65歳～	71			その他	348	生活技術	936
		その他	614					就労	503
								余暇等	267
								権利擁護	71
								その他	672
合計	5049	合計	5049	合計	5172	合計	5485	合計	7347

(エ) 白浜町委託相談支援事業（ぼらんち）

①相談の体制 白浜町では、町と2法人の連携により、旧白浜町教育委員会2F「ぼらんち」で総合相談を実施した。（兼任相談支援専門員1名派遣）

②居場所 ぼらんちにて、毎週水曜日デイサロンを実施した。

③相談の実績（年間：2法人合計）

(件)

自治体別		年齢別		障害別		相談形態別		相談内容別	
白浜町	2047	～6歳	43	身体	183	訪問	310	サービス利用	664
※他の自治体は集計に加えていない。		～12歳	56	知的	388	来所	237	障害や病状	59
		～15歳	22	精神	1078	同行	233	健康・医療	115
		～18歳	38	発達	268	電話	500	不安解消	298
		～20歳	151	高次脳	4	メール	9	保育・教育	68
		～30歳	264	難病	6	会議	54	家族・対人	99
		～40歳	358	その他	120	関係機関	310	家計・経済	56
		～50歳	402			その他	124	生活技術	74
		～60歳	271					就労	64
		～70歳	296					余暇等	129
		70歳～	22					権利擁護	24
		その他	124					その他	306
合計	2047	合計	2047	合計	2047	合計	1777	合計	1956

(オ) 紀南障害者地域生活支援センター（下三栖）

①相談の体制 兼務の相談支援専門員2名で、広域での支援を行った。

②相談の実績（ゆめふる、ぼらんちを除く）

田辺市	みなべ町	すさみ町	上富田町	印南町	和歌山市	御坊市	日高川町	新宮市	県外	合計
250	74	24	44	13	6	3	14	16	10	1145

(カ) 地域における相談支援体制の整備に向けた活動

①地域自立支援協議会（事務局会議、全体会、定例会、地域移行部会）の活動に参加するとともに、精神障害者の地域支援を主体的に実施した。

②相談支援事業所協議会において、地域の課題等について検討をすすめた。

③白浜町との協議を行い、町内の体制整備に向けて検討をすすめた。

V. その他

1. 研修等の参加、出前講座等

(ア) 計画相談体制の整備に向けて、伝達研修を開催し周知を図った。

(イ) 県及び地域移行部会と連携して、地域移行研修に取り組んだ。

(ウ) 積極的に障害者諸団体及び法人の研修に参加し研鑽を図った。

4. 各団体への委員派遣

各団体への委員派遣を通して、地域における連携強化を図った。

ゆうあいホーム・すてっぷはうす・ショートステイ事業

事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

(1) 前年度からの変更点

調理実習（月 1 回実施）

- ・ 調理実習の食数（現在 2 3 名）が増えて来ていたので、班ごとに班の分（5 名程度）だけ作るということで食数を減らし、利用者の負担を減らした。・・・以前は職員と利用者 5 名程度で 2 3 名ぶんを調理していた。

グループ調理（土日、祝日実施）

- ・ 前年度までは調理実習以外の週末は希望者によるグループ調理を行っていたが、人数が多くなってきているため、土日、祝日にお弁当を導入した。（仕出し弁当で通常よりカロリー計算をしたもの）・・・以前は休みごとに希望者を募り夕方、職員とともに調理を行っていた。（参加者 1 2 名程度）

(2) 個別支援について

- ・ 金銭管理や服薬管理等の個別のかかわりが必要な利用者が増加している。（年度末時点の利用者 23 名のうち、金銭管理を実施している者は 15 名である。また服薬管理を実施している者は 8 名である。）
- ・ 衛生面の保持等に関して支援が必要な利用者も若干名おり、必要に応じて声かけや一緒に行う等の支援を行った。

(3) 日中施設等との連携

(ア) 活動センターとの連携に関して

- ・ 活動センター及び陽だまりと連携し、週 1 回程度の日中活動機会を提供した。

(イ) 利用者の日中施設の利用状況について（年度末時点 23 名中）

- | | | | |
|----------|-----|----------|-----|
| ・ やおき工房 | 6 名 | ・ ハモティー | 2 名 |
| ・ 陽だまり | 6 名 | ・ すまいる | 1 名 |
| ・ あすか作業所 | 1 名 | ・ デイケア | 3 名 |
| ・ 未利用 | 1 名 | ・ A 型事業所 | 1 名 |
| ・ いなづみ | 1 名 | ・ か〜む | 1 名 |

残った課題

- ・ 利用者の高齢化は確実に進んでおり、それとともに高肥満や糖尿病等の生

活習慣病や認知症を患う利用者も増えてきている。利用者の健康管理が非常に重要になってきている。今後は職員の健康管理や介護等に関する知識や対応力が不可欠である。施設や法人内で必要な研修を実施し、介護福祉士等の資格取得を勧めていくことも必要である。

- 家族と利用者、家族と施設の乖離が進んでいる。また、家族同士の横のつながりも依然として弱い。

平成 25 年度 ゆうあいホーム 実績

職員数	施設長	ワーカー 生活支援	宿直員	調理員					計
	1	6	2	2					11

年間 利用者	男女比別		利用者の年齢別						障害別		
	男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	精神	知的	身体
	11	9	0	1	2	5	6	8	17	3	0

出身市町村別

出身市町村	田辺	上富田	みなべ	新宮	埼玉県	白浜	日高川	すさみ	印南			計
人数	10	2	1	0	1	2	1	2	1			20

月別 利用者数 (定員 = 19 人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
在籍数(月初め)	19	19	19	19	19	19	19	19	18	18	18	17
入所者	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0
延利用日数	555	582	540	563	563	561	564	539	534	505	435	521
給食の 喫食数(夕食)	410	415	381	436	453	340	418	362	359	351	288	335

合計	開所日数	延利用者数	延利用日数	利用率	喫食数
	365	24	6,462	93.2%	4,548

平成 25 年度 すてっぷはうす 実績

職員数	施設長	ワーカー 生活支援	宿直員	調理員					計
	1	6	2	2					11

兼務

年間利用者	男女比別		利用者の年代別						障害別		
	男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	精神	知的	身体
	3	3	0	0	1	1	3	1	6	0	0

出身市町村別

出身市町村	田辺	新宮	みなべ									計
人数	3	1	2									6

月別 利用者数 (定員 = 6 人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
在籍数(月初め)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
給食の 喫食数(夕食)	126	129	120	138	144	101	110	119	124	126	108	119

合計	開所日数	延利用者数	延利用日数	利用率	喫食数
	365	6	1,272	100.0%	1,464

平成 25 年度 体験利用 実績

職員数	施設長	ワーカー 生活支援	宿直員	調理員						計
	1	6	2	2						11

年間利用者	男女比別		利用者の年代別					障害別		
	男	女	10代	20代	30代	40代	50以上	精神	知的	身体
	2	1	0	0	2	0	1	2	1	0

出身市町村別

出身市町村	田辺	みなべ	日高川	すさみ								計
人数	3	0	0	0								3

月別 利用者数 (定員 = 空室利用)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
延利用者数	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1
延利用日数	0	0	0	2	0	8	0	0	0	0	0	9
給食の 喫食数(夕食)	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	6

合計	開所日数	延利用者数	延利用日数	利用率(人)	喫食数
	365	3	19	0.05	11

平成 25 年度 ショートステイ事業 実績

職員数	施設長	ワーカー 生活支援	宿直員	調理員					計
	1	6	2	2					11

年間利用者	男女比		利用者の年代別					障害別		
	男	女	10代	20代	30代	40代	50以上	精神	知的	身体
	6	6	0	3	4	1	4	9	2	1

出身市町村別

出身市町村	海南	有田	田辺	新宮	みなべ	上富田	白浜	すさみ	串本	印南	日高	計
人数	0	1	5	0	1	1	2	0	0	1	1	12

月別 利用者数 併設型(定員=1名) 空床型(空き居室を利用)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
延利用者数	5	4	1	5	2	2	2	2	2	1	4	5
延利用日数	20	19	7	15	8	10	9	10	9	7	14	18
給食の 喫食数(夕食)	11	9	4	8	4	5	5	6	5	4	7	9

合計	開所日数	延利用者数	延利用日数	利用率	喫食数
	365	35	146	40.00%	77

平成 25 年度 白浜町・上富田町日中ショートステイ事業 実績

職員数	施設長	ワーカー 生活支援	宿直員	調理員						計
	1	6	2	2						11

年間利用者	男女比		利用者の年代別					障害別		
	男	女	10代	20代	30代	40代	50以上	精神	知的	身体
	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1

出身市町村別

出身市町村	白浜	上富田										計
	1	0										1

月別利用者数 (定員= 1人/1日)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
延利用者数	9	10	8	9	8	5	4	9	7	8	7	7
延利用日数	9	10	8	9	8	5	4	9	7	8	7	7
給食の 喫食数(夕食)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

合計	開所日数	延利用者数	延利用日数	利用率	喫食数
	365	91	91	24.93%	0

平成 25 年度 田辺市生活訓練等事業 実績

職員数	施設長	ワーカー 生活支援	宿直員	調理員					計
	1	6	2	2					11

年間 利用者	男女比		利用者の年代別					障害別		
	男	女	10代	20代	30代	40代	50以上	精神	知的	身体
	1	2	0	0	1	1	1	3	0	0

出身市町村別

出身市町村	田辺											計
人数	3											3

月別 利用者数 (定員 = 1人/1日)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
延利用者数	2	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0
延利用日数	5	0	0	0	0	0	0	2	2	8	0	0
給食の 喫食数(夕食)	3	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0

合計	開所日数	延利用者数	延利用日数	利用率	喫食数
	365	7	17	4.66%	7

平成 25 年度 地域移行支援事業体験宿泊 実績

職員数	施設長	ワーカー 生活支援	宿直員	調理員						計
	1	6	2	2						11

年間 利用者	男女比		利用者の年代別					障害別		
	男	女	10代	20代	30代	40代	50以上	精神	知的	身体
	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0

出身市町村別

出身市町村	田辺											計
人数	2											2

月別 利用者数 (定員 = 空き居室利用)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
延利用者数	0	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0
延利用日数	0	3	5	7	10	0	0	0	0	0	0	0
給食の 喫食数(夕食)	0	2	3	5	6	0	0	0	0	0	0	0

合計	開所日数	延利用者数	延利用日数	利用率	喫食数
	365	7	25	6.85%	16

平成 25 年度 ケアホーム体験 実績

職員数	施設長	ワーカー 生活支援	宿直員	調理員						計
	1	6	2	2						11

年間 利用者	男女比		利用者の年代別					障害別		
	男	女	10代	20代	30代	40代	50以上	精神	知的	身体
	2	1	0	1	0	0	2	3	0	0

出身市町村別

出身市町村	有田	田辺										計
人数	1	2										3

月別 利用者数 (定員 = 空き居室利用)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
延利用者数	0	0	0	1	3	1	1	0	0	1	0	0
延利用日数	0	0	0	2	8	8	2	0	0	2	0	0
給食の 喫食数(夕食)	0	0	0	1	5	6	0	0	0	1	0	0

合計	開所日数	延利用者数	延利用日数	利用率	喫食数
	365	7	22	6.03%	13

ほわいとホーム 事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

【運営概況】

平成 25 年度、ほわいとホームは、利用者 10 名（定員 10 名）でスタートした。

今年度も引き続き、利用者の主体的な活動を支援するとともに利用者同士の協力関係の構築及び利用者自身が地域を知るという取り組みに重点をおいて支援を行ってきた。利用者自身が買い物に行き食事を確保することにおいて、日常生活の自立をはかった。また、アルミ缶回収はかーむ作業所と連携して行うことにより、今まで以上にスムーズな対応ができた。地域行事や地域バザー活動等（大塔夏祭りバザー、上富田健康祭り、大谷バザーetc）への積極的な参加を促した。その他、去年同様、非常災害時の対策として地震・津波を想定した避難訓練を実施するとともに、災害時の持ち出し備品を確認し緊急時の対応についても留意した。

利用者の動きとして、他事業所へチャレンジのため 1 名ホームを退所、実家へ戻られたのが 1 名、もう 1 名は長期入院のため退所ということで、25 年度末時点で空き室が 3 室となった。

今後の課題として、3 室をどのように埋めていくかを検討する必要がある。

ほわいとホーム 利用実績

平成 25 年 3 月 31 日現在

職員体制

合 計	世 話 人	生活支援 員
4 人	3 人	1 人

※その他ゆうあいホーム職員が兼務しバックアップ。

利用者状況

男女別

合 計	男性	女性
10 人	4 人	6 人

年齢別

合 計	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
10 人	0 人	0 人	2 人	6 人	0 人	2 人

出身市町村別

合 計	田辺市	白浜町	上富田町	和歌山市	美浜町	三重県 紀宝町	新宮市 すさみ町
10 人	2 人	2 人	1 人	1 人	1 人	1 人	各 1 人

障害程度区分別

合 計	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
10 人	3 人	3 人	4 人	0 人	0 人	0 人

日中活動別

合 計	やおき工 房	ハモニティ ー	陽だまり	デイケア	他事業所
10 人	1 人	2 人	2 人	2 人	3 人

月別

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
10 名	9 名	9 名	9 名	9 名	10 名

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
10 名	7 名				

平成 25 年度 体験利用(ほわいと) 実績

職員数	施設長	ワーカー 生活支援	宿直員	調理員	事務員				計
	1	1	1	1					4

年間利用者	男女比別		利用者の年代別					障害別		
	男	女	10代	20代	30代	40代	50以上	精神	知的	身体
	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0

出身市町村別

出身市町村	田辺	上富田	白浜	すさみ	御坊	海南	串本	新宮				計
人数	0	0	0	0	0	0	0	1				1

月別 利用者数 (定員= 空室利用)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
延利用日数	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
給食の 喫食数(夕食)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

合計	開所日数	延利用者数	延利用日数	利用率(人)	喫食数
	365	1	3	0.01	1

田辺市精神障害者ボランティア活動支援事業 事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

1. 事業活動内容

I. 障害者当事者活動支援

(ア) パソコン教室

場 所：和歌山県立情報センター・ビッグ U 情報実習室 3
日 程：平成 25 年 7 月 27 日（土） 平成 25 年 7 月 28 日（日）
講 師：室井 光恵氏（株式会社サンクス チーフマネージャー）
玉置 綾乃氏（株式会社サンクス スタッフ）

参加人数：14 名

経 費：38,486 円

内 訳	金 額	内 容
講師謝金	20,000 円	10,000 円×2 回
賃借料	5,880 円	会場使用料
印刷製本費	11,500 円	テキスト作成代、印刷代
消耗品費	1,106 円	講師飲料代・用紙代

(イ) フラワーアレンジメント教室

場 所：やおき福祉会「ゆうあいホーム」
日 程：平成 25 年 9 月 7 日（土）
講 師：野田ひろ子氏、「bigi」スタッフ

参加人数：13 人

経 費：51,825 円

内 訳	金 額	内 容
講師謝金	20,000 円	10,000×2 人
消耗品費	31,825 円	景品他

(ウ) 障害者と市民とのグラウンドゴルフ交流会（雨天の為中止）

場 所：上富田町「和の会」グラウンド
日 程：平成 25 年 10 月 19 日
講 師：出羽卓司氏

参加人数(予定)：25 名

経 費：20,320 円

内 訳	金 額	内 容
講師謝金	10,000 円	講師謝金
損害保険料	1,350 円	スポーツ保険料

消耗品費	8,970 円	帽子代
------	---------	-----

(エ) 調理実習

場 所：龍神村保健センター
 日 程：平成 25 年 8 月 8 日
 参加人数：11 名(参加者 6 名・スタッフ 5 名)
 経 費：4,592 円

内 訳	金 額	内 容
消耗品費	4,592 円	材料代

(オ) いちご狩り

場 所：まあと工房(みなべ町)
 日 程：平成 26 年 3 月 14 日
 参加人数：13 名(参加者 9 名・スタッフ 4 名)
 経 費：21,304 円

内 訳	金 額	内 容
入園料	19,500 円	1,500 円×13 人
燃料費	1,804 円	ガソリン代

小計 136,527 円

II. 障害者ボランティア育成

(ア) 障害者福祉や精神障害についての知識習得

- ①場 所：和歌山県立情報交流センター・ビッグ U 研修室 1
 日 程：平成 25 年 11 月 15 日 (金)
 講 師：赤堀哲也氏
 内 容：『障害者の高齢化について』
 参加人数：40 名
 経 費：40,064 円

内 訳	金 額	内 容
講師謝金	22,275 円	22,275 円×1 人
賃借料	7,090 円	会場使用料
印刷製本費	3,618 円	資料作成費
消耗品費	6,801 円	講師飲料費他
通信運搬費	280 円	郵送料

- ②場 所：和歌山県立情報交流センター・ビッグ U 研修室 1
 日 程：平成 26 年 2 月 14 日 (金)
 講 師：石田卓也氏

内 容：『薬について』

参加人数：82名

経 費：62,270円

内 訳	金 額	内 容
講師謝金	22,275円	22,275円×1回
旅費交通費	10,000円	講師交通費
賃借料	6,500円	会場代
消耗品費	3,110円	垂れ幕代、講師飲料
印刷製本費	11,700円	資料作成費
研修費	8,605円	講師宿泊代
通信運搬費	80円	郵送料

③場 所：和歌山県立情報交流センター・ビッグU 研修室1

日 程：平成26年3月7日（金）

講 師：山本 朗氏

内 容：『認知行動療法について』

参加人数：78名

経 費：65,839円

内 訳	金 額	内 容
講師謝金	33,412円	33,412円×1回
賃借料	6,080円	会場代
消耗品費	11,347円	垂れ幕代、講師飲料
印刷製本費	10,000円	資料作成費
旅費交通費	5,000円	講師交通費

(イ) 障害者と高校生とのボウリング交流会

場 所：ジストボウル田辺

日 程：平成25年12月7日（土）

参加人数：83名

経 費：110,393円

内 訳	金 額	内 容
研修費	90,950円	ゲーム代
消耗品費	19,443円	景品代

(ウ) 精神障害者家族会「八起き会」との学習会

場 所：和歌山県立情報交流センター・ビッグU 研修室4

日 程：平成26年2月6日（木）

講 師：森崎雅宝氏

内 容：『あなたが生きる意味とは何なのか？』

参加人数：40名

経費：49,402

内 訳	金 額	内 容
講師謝金	33,412 円	33,412 円×1人
消耗品費	1,575 円	講師昼食代
賃借料	5,460 円	会場使用料
通信運搬費	4,000 円	郵送料
印刷製本費	4,955 円	資料印刷代、チラシ印刷代

(エ) 障害者とたきない町内会との交流

場 所：アドベンチャーワールド

日 程：平成26年3月5日（水）

参加人数：12名

経費：69,048円

内 訳	金 額	内 容
旅費交通費	60,550 円	バス代、入園料
消耗品費	7,200 円	昼食弁当代
印刷製本費	1,298 円	チラシ印刷他

小計 397,016円

Ⅲ. 障害者ボランティア団体活動支援

(ア) 精神障害者ボランティア団体『めだかくらぶ』活動支援

②場 所：南部梅林

日 程：平成26年2月6日（木）

内 容：『南部梅林ツアー』

参加人数：17名

経費：66,457円

内 訳	金 額	内 容
旅費交通費	46,250 円	バス代、入園料
消耗品費	18,707 円	昼食弁当代、名札、ボールペン
賃借料	1,500 円	駐車場代

小計 66,457円

合計 600,000円

訪問介護支援センター 事業報告書

平成25年度 やおき福祉会

I. 事業概要

事業種別：障害者居宅介護事業、指定介護予防サービス事業

対象地域：田辺市、白浜町、みなべ町、上富田町

障害種別：精神障害・知的障害・身体障害

利用定員：定めなし

職員：管理者1名、サービス提供責任者1名、ヘルパー5名

所在地：田辺市たきない町22番13号

支援内容：障害者の居宅において、日常的な家事における援助や障害特性に応じた見守りを行うとともに、身体介護を通して当事者の生活力の維持と向上を目的とした支援を行う。

II. 事業内容

- ①家事援助の実施
- ②身体介護の実施
- ③見守り支援の実施
- ④移動支援の実施
- ⑤ヘルパー会議の実施
- ⑥研修の実施
- ⑦関係職種との連携

III. 25年度 事業計画

ア. 生活援助の実施

ヘルパーが主体となって調理、買い物、洗濯、住居の掃除等を行い、生活のサポート、または住居の衛生面に配慮して清潔を保つように努める。

イ. 身体介護の実施

身体的な理由により入浴等が出来ない利用者に対して、足浴や入浴支援を行う。

ウ. 見守り支援の実施

単身者が多く、段々高齢化となってきた状況の中で、突発的な病気や服薬の中断等を防止する為に、日々の状態を確認する。

エ. 介護予防支援の実施

要介護者の発生をできるだけ防ぎ、日常生活を送る上で、「自立」に向けた生

活を送れるよう計画を作成し、必要な支援を行う。

オ. ヘルパー会議の実施

月一回、ヘルパー会議を行い、情報交換や各利用者の状態を把握する。

カ. 研修の実施

支援技能の向上を目的として、必要な研修を行うとともに、他機関の開催する研修への参加機会を提供する。

キ. 関係職種との連携

行政及び医療機関、また、利用者を取り巻く福祉サービス提供機関との連携を密に行い、包括的な援助体制に寄与することで利用者が地域で安心した生活を送れるようにサポートする。

IV. サービス内容

福祉サービスの「居宅介護事業」と田辺市地域生活支援事業である「移動支援事業」の委託を受け、「家事援助」「身体介護」「移動支援」を利用者のニーズにより、個別に提供した。

IV. 利用実績（月別）

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用者合計
32	36	36	35	36	36	37	37	37	36	37	35	429 (前年度 371)

介護保険

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用者合計
									1	1	1	3 (前年度 無)

25年度の課題

・ヘルパー1名の退職により、37名の利用者に対してヘルパー数5名で事業を行ってきたが、ヘルパーの病欠など何らかの事業により臨時で休んだ場合に、勤務表に欠員が生じる事が予想されたので、事前対策として継続的にヘルパー募集を行った。

但し、25年度は一人も採用する事が出来なかったため、26年度は早急に採用する必要がある。

陽だまり 事業報告書

平成25年度 やおき福祉会

I. 当施設の理念と基本方針

- ・陽だまりは「憩い」をモットーにメンバーが安心して集える場、過ごせる場を提供しており、また、作業ばかりでなくメンバーとスタッフがじっくりとコミュニケーションが図れる場として、その環境作りに努めている。
- ・就労希望のメンバーに対しては、やおき工房、ハモニティーを中心に法人内の事業所と連携して施設外での実習場所を増やし、メンバーがステップアップ出来るようにサポートを行っている。
- ・販売活動（主にチョコレート）を通じ、人と繋がる喜び、物が売れる喜びなど、普段施設内だけでは味わいづらい体験を重ねていく。

II. 当施設のこれまでの経過

年度	職員数	登録者数	日平均利用者数	月平均工賃
23年度	5人	30人	22.6人	3,200円
24年度	6人	29人	20.8人	4,172円
25年度	7人	27人	20.9人	4,590円

III. 平成25年度 事業計画

活動内容

1. 作業

(ア) 自主製品の開発に取り組み販路を構築する。

(イ) 受託作業（箱折り・シール貼り・チョコ販売等）を効果的に進め、工賃アップと働く意欲を育む。

(ウ) 地元で行われるバザー等に参加し、地域との繋がりをさらに広げる。

(エ) 一般就労やB型移行事業所等に繋がるよう支援する。

(オ) 農作業を取り入れ、安全で安心な食育を学び体験する。

2. 生活

(ア) 防災に力点を置き、メンバーの防災意識を高めると共に、震災時等の緊急時に備え備蓄を進めていく。

(イ) 地元で行われるバザー等に参加し、地域との繋がりをさらに広げる。

(ウ) 一般就労や就労移行支援に繋がるよう支援する。

(エ) 農作業を取り入れ、安全で安心な食育を学び体験する。

3. 学習

(ア) 糖尿病を抱えているメンバーが増えており、専門の講師を招き食についての学習会を行う。

(イ) 大半のメンバーに肥満化が進んでいるので、インストラクターを招いてストレッチなど減量について学ぶ。

4. 関係機関との連携

(ア) 円滑なサービスを提供していけるよう医療・保健所・市町村・他施設との連携を図る。

(イ) 相談支援事業所と連携を行い、サービスを必要とするメンバーに対し、体験利用や実習の機会を設け、新規利用者の受け入れを図る。

(ウ) 就労希望者には、やおき工房、すまいる等の就労移行支援を行っている事業所との連携を図り、B型から就労移行へ順調に移行出来るよう支援を行う。

(エ) か〜むやかしのき作業所は開所して年数が浅いので、当面は作業が少ない事が予想されるので、陽だまり、やおき工房、か〜むが連携して部分的にでも作業の共有が出来るように整備していく。

5. 利用者処遇関係

- (ア) 個別支援計画を作成し、サービス利用者の課題や意向を確認し合い、定期的に見直しを図りながら支援する。
- (イ) 利用者の日々の状態を把握し、必要な支援及び助言を行うと共に、生活相談も継続して行う。また、必要に応じて、医療機関受診同伴や、家庭訪問、関係機関との連携も図る。
- (ウ) 一般就労やそれを目標とした他事業所への移行を円滑に進められるよう、他機関との連携やフォローアップ体制を構築する。
- (エ) 保護者懇談会を開催し、活動報告及び意見交換等を行う。

6. 地域との交流

- (ア) 町内会加入、街頭署名。
- (イ) 地域の行事やバザー等へ可能な限り参加する。

IV. 平成25年度事業報告

事業内容

1. 作業

- ・ 25年度は前年と比較すると全体的に作業量の減少が見られたので、新たに白浜町のコスモスの郷からゴミ袋の折畳み作業の委託を受け、全体的に減少した作業量の分を補う事が出来た。
また、法人内の受託作業としては23年度からやおき工房より配食業務を受託し実践してきたが、25年度からはハモニティー、ゆうあいホームの分はなくなり、新たにか〜むの分と陽だまりの分を配送した。

2. 販売活動

- ・ 受託作業だけでは、なかなか工賃の増額が厳しい現状があったので、25年度も前年度と同様にチョコレートの注文販売を主に行った事で徐々にリピーターのお客が増え、陽だまりまでチョコレートを買いに来てくれる方が多くいた。

3. バザー活動

- ・ 25年度は3月に開催された福島復興バザーに参加し、陽だまりとしては初めてチョコレート以外の食品としてフライドポテトを販売した。また、メンバーも臨時開所日という事で17名の参加があり、それぞれがバザーを満喫する事が出来ていた。

4. レクリエーション活動

- ・ 前年度までは、地域活動支援センターとの連携し定期的にレクリエーションを行ってきたが、25年度は陽だまり単独で行った。また、レクリエーションの項目についてメンバーが主体となって決める事になっており、それ以外に季節行事（花見、遠足等）も並行して行う事が出来た。

V. 平成25年度の課題

1. 作業の確保

- (ア) 登録メンバーは増加傾向にあるが、反対に作業自体が減少傾向にあり、当初の予定では大幅な時給アップも検討していたが、結局は少額アップとなるなど難しい状況だった。
- (イ) 25年度の当初計画では、施設外作業として農園作業をもう一つの作業として位置付ける予定であったが、農地を確保出来ずにプランターのみでの栽培で小規模な展開となってしまった。

VI. 地域との交流

1. バザー等に参加し地域の方との交流を深める事が出来た。
2. ボランティアや看護学生の実習を受け入れる事で、啓発啓蒙に繋げる事が出来た。

か～む 事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

平成 25 年 5 月 1 日より、就労継続支援 B 型事業所として定員 20 名に対して、登録者 14 名で事業を開始する事となる。定員数に登録者数が満たない状況からのスタートとなり、新規利用者の受入れを幅広く行ない、新規利用数は 13 名、退所者数は 5 名であった。平成 26 年 3 月末時点での登録者数は 22 名となっている。しかしながら、人数が増加してはいるものの、病状等により休みがちな利用者も多く、通所率は年間を通して 5 割程で推移している。平成 25 年度の延べ利用者数は 2,053 名、延べ開所日数が 221 日で 1 日あたりの平均利用者数は 9.3 名であった。

また、か～むでは自力通所が困難な利用者も多く、利用促進を目的とし送迎支援を実施した。終日の利用が難しい利用者も多数いる事から、半日の利用も可能となるよう昼食後の送迎も行なった。平成 25 年度の延べ送迎利用者数は 1,892 名、1 日あたりの平均送迎利用者数は 8.5 名で、利用者の 9 割が送迎を利用しているという状況。ただ、利用者が増えると共に、送迎エリアが広域になってくる事や、車両の乗員数との兼ね合い、職員体制等々、様々な課題も出てきている。

【登録者数推移、月別利用状況】

	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
登録者数	14 名	15 名	17 名	19 名	20 名	18 名	19 名	19 名	19 名	21 名	22 名
開所日数	21 日	20 日	23 日	18 日	19 日	22 日	20 日	19 日	19 日	20 日	20 日
平均利用者数	7.2	7.9	9.1	8.3	8.9	7.9	10.4	10.6	10.2	11	11.1
平均送迎利用者数	6.6	7.2	8.3	7.8	8.1	7.2	9.5	10.1	9.6	9.9	9.7

I 就労支援事業

平成 25 年度は月額平均工賃 3,500 円という結果となった。就労継続支援 B 型事業所としての要件である平均工賃 3,000 円を超える事はできたが、内職作業が主だった取り組みで授産収益はまだまだ脆弱である。利用者の工賃を増やす為の取り組みが必要な状態で、利用者数の推移、一人一人の様態を見極めながら、新しい作業の導入を検討している。

【就労支援事業内容】

- ・ 受託作業（箱折り、製袋作業、配食）

箱折は田辺市内、白浜町内各 1 社ずつ計 2 社より受託。製袋作業は白浜町内

の就労継続支援事業所から、配食については、やおき工場の給食事業からの委託を受けて行った。

- ・ アルミ缶回収
これまでほわいとホームで行っていたアルミ缶回収をか〜むで引継いで行なった。町内の協力者も多く、今後も回収先の増加を目指し活動を広げていく。
- ・ 夏季、冬季物品販売
季節物品の販売に取り組みを行なった。

【平成 25 年度工賃額】

支払対象者数	支払金額	平均工賃月額
延べ 176 名	616,160 円	3500 円

II 行事、レクリエーション

- ・ 平成 25 年 5 月 23 日、開所式を行なった。
- ・ 平成 25 年 6 月 20 日、平成 26 年 1 月 30 日に防災訓練を実施。消火器の使用訓練やビデオによる防火対策を学習。避難訓練も行なった。
- ・ 平成 26 年 2 月 28 日にはまゆう病院にて利用者の健康診断を実施した。
- ・ 半日利用者が多い事から 1 泊旅行の実施は困難であった為、終日レクを年 2 回実施した（貴志駅へのドライブ、護摩壇山への紅葉狩り）。
- ・ 毎週木曜日の午後から、レクリエーション活動を実施した。利用者の希望を取り入れ、創作活動やスポーツ、釣り、カラオケ、茶話会等、様々な内容で実施。

III 利用者支援

- ・ 毎朝の日課として、ラジオ体操と散歩の時間を持ち、体を動かし健康維持促進に取り組んだ。
- ・ 館内の清掃活動を取り入れ、生活スキルの向上に努めた。
- ・ 個別支援計画の作成に基づき、一人一人の様態に合わせて利用者支援を行なった。相談対応にも重点を置き、利用者の心身の安定を図り継続した利用ができるよう支援した。また、通所が途絶えた利用者には訪問支援も実施した。

ハモニティー 事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

平成 25 年度ハモニティーは、定員 20 名、登録者 29 名でスタートする。1 年間での新規利用者数は 5 名で、退所者数は 7 名であった。退所者 7 名のうち他法人 A 型事業所への移行が 2 名、他法人 B 型への移行が 2 名、かへむへの移行が 1 名、自宅生活に戻られた方が 2 名であった。

年間を通しての延べ利用者数は 5,098 人、延べ開所日数が 241 日で 1 日平均利用者数は 21.2 名であった。

[利用者内訳]

① 性別・年代別 (H26.3.1 時点)

	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	合計
男	3	4	6	3	2	18 名
女	3	2	2	3	1	11 名
合計	6	6	8	6	3	29 名

(平均年齢 43.9 歳)

② 出身市町村別 (H26.3.1 時点)

市町村名	利用者数
田辺市	25 名
御坊市	1 名
白浜町	1 名
みなべ町	1 名
紀宝町(三重県)	1 名

③ 障害種別(手帳取得別)

障害名	利用者数
精神障害	26 名
知的障害	3 名

[利用実績] (H25.4～H26.3)

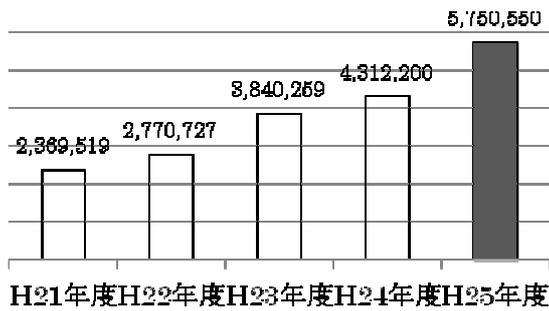
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	21.6	21.8	20.0	19.4	20.7	20.4	19.8	22.1	22.5	22.0	21.4	22.1
開所日数	21 日	21 日	20 日	23 日	17 日	19 日	22 日	20 日	19 日	19 日	20 日	20 日

[活動状況]

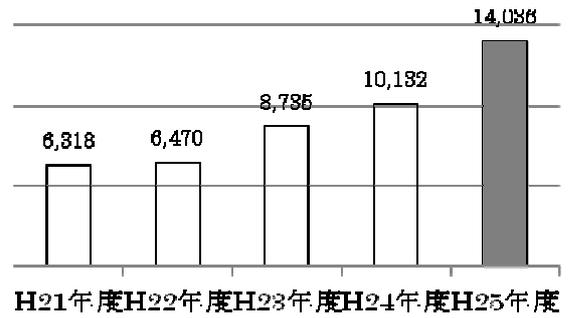
I. 就労支援事業内容

- ・自主製品(八起焼)製造販売
- ・受託作業(箱折り、電子部品パレット入れ、DM封入、新聞帯封、売店)
- ・古紙、空き缶、古着回収 ・職場実習 ・バザー
- ・印刷物受注販売

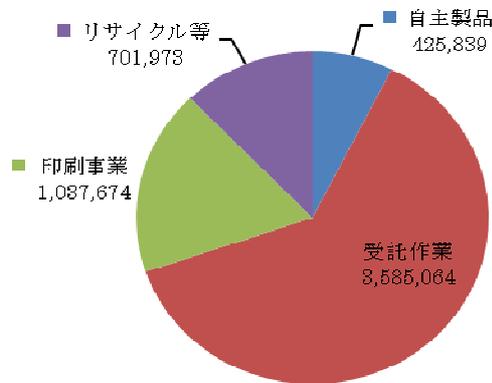
① 就労支援事業収入推移



② 平均工賃推移



③ 事業別収入内訳



II. 行事内容

月	日	行事名	内容
4	3 17	お花見 スポーツレク	平草原 大屋体育館
5	2	買い物・カラオケ	パピシ、メロディーホール
	9	ドライブ	海鮮せんべい、か〜む見学
	16	スポーツレク	大屋体育館
	26	溝掃除	文里町内会
6	30	釣り・ゴルフ	元島堤防・パルコ
	6	釣り・カラオケ	文里湾・メロディーホール
	13 20	DVD鑑賞・買い物 スポレク	パピシ 大屋体育館

	27	防災訓練	DVDによる防災学習、津波避難場所への避難訓練
7	14 18 20	バリアフリー祭り 茶話会 駐車場舗装工事開始	周参見海水浴場にてマリンスポーツ体験・バザー実施 アイスクーキ 工期(7/20、21)
8	8 9	海水浴 夕涼み会	扇ヶ浜海水浴場 駐車場にてバーベキュー
9	5 12 20	買い物レク ブドウ狩り 職員研修	パピシ、紀菜館 紀南観光ぶどう園 グループワークを学ぶ
10	3 10 11 17 27	バッティングセンター 買い物 わされん運動会 1泊旅行 職員交流会	市ノ瀬バッティングセンター パピシ、ユニクロ 白浜体育館(結果⇒優勝) 神戸、大阪方面(利用者15名、職員6名) 研修部主催(古道ヶ丘)
11	1 7 7 15 21 23 26 28	安全運転管理者講習 外食レク 職員研修 職員研修 わされんソフトボール大会 外壁、屋根塗装工事開始 研修 防災訓練	県公安委員会(みなペロイヤルホテル) 和わにてバイキング料理 計画相談について 高齢化する障害者の支援について たきないグラウンド(予選敗退) 工期(11/23～12/1) 虐待防止・権利擁護研修(県障害福祉課主催) 防火学習、火災通報・消火・避難訓練
12	10 12 19 26	署名運動 買い物レク スポレク 忘年会・クリスマス会	きょうされん国会請願(オーシティー) パピシ、ユニクロ 大屋体育館 和わにて外食・クリスマス会ではビンゴゲーム等
1	6 16 17 18	初詣 茶話会 職員研修 管理者研修	鬮鶏神社 ぜんざいつくり 社会資源と制度について リスクマネジメントについて
2	7 13 14 15 18	防災訓練 観梅 職員研修 ふれあい文化祭 車両助成	町内会合同による津波避難訓練 みなべ梅林へ 薬について(講師:石田先生) 土曜開所し参加、バザー実施(ハナヨアリーナ) 日本財団より車両助成(軽箱バン)
3	6 8 7 14 20	外食レク 保護者懇談会 職員研修 利用者健康診断 職員研修	和わにてバイキング 活動報告及び懇談会(保護者9名、職員5名) 認知行動療法研修(講師:山本朗先生) はまゆう病院にて14日と20日に分かれて実施 障害者虐待防止・権利擁護研修(研修部)

※その他、自立支援協議会、配食会議、防災会議等、連携会議には担当者が随時参加する。

[利用者支援関係]

利用者との定期的な面談や相談、日々の状態の把握に努め、自己実現に向けた個別支援計画の作成、確認を継続しておこない支援をおこなってきた。また、支援の方向性について、職員間で共有できるよう、週1回の職員会議や個別支援計画作成会議を定期的実施してきた。

平成25年度については、ハモニティーから一般就労(半日利用を継続)する利用者も現れ、引き続き個別ニーズに対応した支援を展開していきたい。

古道ヶ丘事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

・ 運営

懸案事項となっていた保養所事業、福祉事業におけるについて田辺市との指定管理契約について契約を継続するとの通知があった。

ただし、更新期間は 10 年から 3 年になり、今回から仕様書と協議書を作成することとなった。その中で体育館が避難施設になっていることから、行政として災害用品が必要であることを確認し、毛布とアルミシートを備品として設置してもらった。

また、バーベキュー広場にあるトイレの老朽化が進んでいたため、新築してもらえらることとなった。

24 年度より本宮くまのこ作業所独立運営に向け検討を始めた。理由として古道ヶ丘として年間約 300 万円の増収が見込めるためであるが、職員配置基準面における課題があることと、くまのこ作業所が約 100 万円の減収となるため慎重に検討を進めたい。

前年度に引き続きランニングコストの削減に努めた。その一環として給食事業を「株式会社南陽食品」に委託し、コストの削減に努めた。食事内容や取引関係も良好なため、今後も継続していきたい。

センター棟、バンガローの照明をほぼ LED に交換することで、電気代だけでなく電灯交換にかかる手間を省くことができた。また、災害時への備えを果たすことができた。

計画相談については、職員の負担が増えるが法人内で検討した結果、26 年度より作成を開始することとなった。

・ 就労継続支援事業 B

宿泊予約の一部と団体食を専門業者に委託し、売り上げは 610 万円であった。団体食は給食と合わせ「株式会社南陽食品」外部委託することで経費を削減することができた。

ブルーベリー収穫は約 240 k g、売り上げは 30 万円と目標には至らなかったため、次年度は選定作業を見直したい。作業内容や手順を見直したこと、主な取引先を共同作業所に絞ったことで労働量を軽減し、効率的に販売することができた。

工賃は 24 年度 10, 203 円であったのに対し、25 年度は 12, 058 円であった。

・ 生活

全体で共通認識できる個別支援計画の作成に努め、週に一度会議で計画内容の確認を行い、実態に即した支援を行うことができた。

年 1 回の健康診断を実施したところ、多くの利用者が生活習慣に課題があることが判明した。

防災計画に基づき平成 25 年 6 月 22 日と平成 26 年 2 月 20 日に避難、通報、消火訓練を実施した。

利用者の主体性を高めるため、今年度から自治会を発足した。自治会長と副自治会長 2 名を選出し、一泊旅行の企画と授産事業の月次報告を実施することができた。

働くことへの動機付けのため、毎月給与支給日に田辺市内への買い物支援を行った。このことは自分の努力によって欲しいものが買えるということが「働く意欲につながった」ものと感じている。また、余暇支援として年間行事計画に基づき、11 月に神戸方面一泊旅行を実施し、ディナークルーズを満喫した。

・利用者支援関係

前年度の延べ利用者数 6,148 名に対し、今年度は 6,260 名と 112 名が増員した。

11 月より週に 1 度 2 時間主に知的障害者の方を対象に利用者学習会を実施し、名前の書き方や、簡単な計算練習をした。また、対人技能の向上を目的とし、主に精神障害の方を対象にソーシャルスキルトレーニングを月 2 回実施した。体力低下、生活習慣病が気になる方を対象に、週に 1 度 2 時間ストレッチや散歩をすることで体力の向上に努めた。

・地域との関わり

ゆめふるから 2 名、御坊・日高障害者総合相談センターから 1 名、紀南こころの医療センターから 1 名が利用につながった。

中辺路小学校から福祉体験学習の 4 年生を受け入れ、施設の持つ役割などについて説明を行った。

平成25年度平均利用者算定表

平成25年4月～平成26年3月（事業所・施設名 古道ヶ丘 ）

番号	援護の実施者(市町村名)	利用回数												合計	出勤率
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	白浜町	21	19	20	21	19	19	21	17	19	18	16	18	228	93%
2	田辺市				21	21	15	11	8	19	16	15	20	146	60%
3	田辺市							14	15	16				45	18%
4	田辺市	0	0											0	0%
5	みなべ町	21	20	19	23	23	17	20	18	19	18	18	21	237	97%
6	田辺市	21	20	20	23	23	19	21	19	19	18	17	19	239	98%
7	田辺市	19	19	15	20	19	18	15	18	19	18	13	20	213	87%
8	田辺市	18	15	16	10	19	17	20	16	16	14	17	17	195	80%
9	田辺市	21	19	20	18	19	19	21	19	18	14	18	21	227	93%
10	田辺市	5	6	6	11	4	5	5	4	4	5	2	3	60	25%
11	御坊市	—	—	—	—	—	8	20	17	—	—	—	—	45	18%
12	田辺市	13	12	2	0	0	0	12	13	13	13	12	17	107	44%
13	田辺市	22	21	20	23	23	19	21	19	19	18	16	20	241	99%
14	田辺市	20	16	20	22	22	18	20	18	18	17	16	21	228	93%
15	田辺市									9	18	17	20	64	26%
16	白浜町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	11	5%
17	田辺市	22	21	20	23	23	19	21	18	19	18	18	20	242	99%
18	田辺市	19	19	20	21	15	7							101	41%
19	田辺市	21	19	20	21	19	19	21	19	19	18	16	21	233	95%
20	田辺市	9	8	7	7	8	10	8	7	7	7	7	8	93	38%
21	田辺市	21	20	20	18	23	19	21	19	19	18	13	20	231	95%
22	田辺市	6	0	0										6	2%
23	田辺市	21	20	20	23	23	19	21	19	19	18	18	21	242	99%
24	田辺市	19	19	19	19	17	18	21	19	19	18	14	20	222	91%
25	田辺市	12	18	18	16	17	16	18	17	16	17	16	20	201	82%
26	田辺市	20	19	20	21	20	19	21	19	19	18	18	20	234	96%
27	田辺市	4	3	4	4	3	2	3	2	3	4	4	5	41	17%
28	田辺市	17	16	17	20	18	15	21	15	19	17	17	20	212	87%
29	田辺市						1	3	1	0	0	0	0	5	2%

30	田辺市	20	16	19	22	23	17	17	17	15	14	13	17	210	86%
31	田辺市	21	19	18	21	19	18	21	17	17	18	16	20	225	92%
32	日高川町	21	20	19	22	21	18	20	19	16	15	9		200	82%
33	田辺市	22	21	20	23	23	19	21	19	19	18	17	21	243	100%
34	田辺市	13	15	14	19	19	13	6	6	16	17	16	20	174	71%
35	田辺市	17	11	14	19	18	18	20	18	17	16	18	20	206	84%
36	田辺市				6	9	11	11	10	12	10	8	12	89	36%
37	田辺市	14	13	4	12	15	15	10	4	0	7	7	15	116	48%
38	白浜町	12	1											13	5%
39	田辺市	0	12	20	21	23	19	20	18	18	18	18	21	208	85%
40	田辺市	21	18	20	19	16	19	20	19	19	18	17	21	227	93%
延べ利用者数 合計		534	496	492	570	565	506	567	504	517	492	458	559	6,260	
開所日数		22	21	20	23	23	19	21	19	19	18	18	21	244	
利用率		81%	79%	82%	83%	82%	89%	90%	88%	91%	91%	85%	89%	86%	
平均利用者数		24.3	23.6	24.6	24.8	24.6	26.6	27.0	26.5	27.2	27.3	25.4	26.6	25.7	

【平均利用者の算出】

$$\begin{array}{rcl}
 \text{延べ利用者数合計} & \div & \text{延べ開所日数} \\
 \mathbf{6,260} & \div & \mathbf{244} = \mathbf{25.7} \quad \mathbf{86\%}
 \end{array}$$

本宮くまのこ作業所事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

・ 運営

24 年度より 3 年の目標を持ち独立に向け準備を進めてきた。理由としては古道ヶ丘の訓練等給付費が年間約 300 万円の増収が見込めるためであるが、職員の配置基準面で課題があること、くまのこ作業所が約 100 万円の減収となることから、慎重に検討を進めたい。

今年度は独立運営を視野にいれ、作業とレクレーションに工夫を行った。

また、事業所をアピールするために月 1 回発行している「くまのこだより」についても、関心を持ってもらいやすいよう今年度よりカラー刷りにした。

これらの取り組みの結果、24 年度 1,852 名であったのに対し 25 年度は 2,258 名であった。

・ 就労継続支援事業 B

茶葉選別作業、箱折り作業を中心としつつ、自主製品（アクリルタワシ、ビーズストラップ）に力をいれた。これらは主にバザーでの販売か、もしくは知り合いや福祉関係者に買ってもらうことがほとんどであった。一般の方にも買ってもらえるよう、本宮町内のお店に営業活動を行い、6箇所のお店に販売されるようになった。野外作業では、清掃作業をしている所からの紹介もあり、現在6箇所で清掃作業を行っている。工賃については24年度が4,971円であったのに対し、25年度は5,387円であった。

・ 生活、利用者支援関係

利用者の自発性を高める第一歩として挨拶することの大事さを朝礼に話し合い、利用者同士で挨拶を行うようになってきている。

また、作業所での服装と外出時の服装が同じであることから、月 1 回の買い物支援で、外出時の服を買うよう声掛けし、今年の 1 泊旅行はみなが T P O に応じた服装をすることができた。

年 1 回のはまゆう健康診断結果で肥満の方が多いことから、本人たちと話し合い毎朝の体重測定を行っている。また、昼食時にご飯を減らし野菜多めの食事を提供している。

利用者から休日に時間を持て余し生活のリズムを崩してしまう、という声があり余暇支援の必要性を強く感じ月 1 回休日開所を行い、生活訓練、余暇支援に取り組んだ。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
なし	こいのぼり バザー	調理実習	バリアフリ ーINすさみ	大塔花火大 会	フラワーアレンジ 教室 空の日フェスタ
10月	11月	12月	1月	2月	3月
なし	翔龍祭 こだま祭り	ボーリング 大会	調理実習	ふれあい文 化祭	調理実習

・地域とのかかわり、運動

毎週月曜日の午後から本宮ゆる体操クラブの方達を招き、メンバーへのゆる体操指導を行った。

今回初めて、国会請願署名の街頭署名をAコープ三里で行い、30筆の署名が集まった。

地域の方に広くやおき福祉会を知ってもらうため、学校、行政、作業所関係など14箇所へ法人機関紙やおきジャーナルを配布した。

平成25年度平均利用者算定表

平成25年4月～平成26年3月（事業所・施設名 古道ヶ丘 ーくまのこ作業所）

番号	援護の実施者(市町村名)	利用回数												合計	出勤率
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	田辺市	21	22	19	22	19	21	22	21	20	20	19	21	247	99%
2	田辺市	8	7	12	14	10	13	18	16	19	14	14	14	159	64%
3	田辺市	14	12	13	11	10	13	15	20	19	16	16	20	179	72%
4	田辺市	14	19	18	21	11	18	21	20	18	18	18	18	214	86%
5	田辺市	10	9	7	10	8	8	12	10	8	8	10	8	108	43%
6	田辺市	15	16	14	16	4	7	9	10	16	19	15	18	159	64%
7	田辺市	21	21	18	21	17	19	22	20	20	19	19	19	236	94%
8	田辺市	11	19	18	21	15	18	21	15	18	16	15	21	208	83%
9	田辺市	0	9	3	2	0	4	3	8	15	13	1	1	59	24%
10	田辺市	17	19	20	23	20	21	22	21	20	16	19	20	238	95%
11	田辺市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
12	田辺市	21	20	20	20	18	18	22	19	11	19	17	21	226	90%
13	田辺市	20	19	17	22	18	18	21	20	17	17	16	20	225	90%
延べ利用者数合計		172	192	179	203	150	178	208	200	201	195	179	201	2,258	
開所日数		21	22	20	23	20	21	22	21	20	20	19	21	250	
利用率		63%	67%	69%	68%	58%	65%	73%	73%	77%	75%	72%	74%	69%	
平均利用者数		8.2	8.7	9.0	8.8	7.5	8.5	9.5	9.5	10.1	9.8	9.4	9.6	9.1	

【平均利用者の算出】

$$\begin{array}{rclclcl} \text{延べ利用者数合計} & \div & \text{延べ開所日数} & & & \\ \mathbf{2,258} & \div & \mathbf{250} & = & \mathbf{9.1} & \mathbf{70\%} \end{array}$$

こどうの家・第2こどうの家事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

・運営

9 月から給食を株式会社南陽食品に依頼する。このことで経費削減と合わせて職員の休日に左右されない継続した給食提供を実施できるようになった。増税や電気代値上げのため、利用料金を変更する必要があると感じている。計画相談については、職員の負担が増えるが法人内で検討した結果、26 年度より作成を開始することとなった。

・利用者支援

職員の支援観を統一に努め、報告・連絡・相談がスムーズに進むようこどうの家日誌様式の変更し、記録のつけ方を統一する。

季節行事や買い物支援など余暇活動の支援を実施することとし、休日に月 1 回のペースでボーリングやドライブ、買い物の同行支援を行った。また、1 名の利用者が休日のデイサービスを利用できるようになった。

生活支援員兼当直職員を配置し、緊急時対応と生活支援を分けて対応した。服薬管理、通院支援、金銭管理サービスを実施する中で、平成 26 年 1 月に利用者の預かり 5 万円を紛失した。今後金銭管理に対する意識を改革し再発を防止する。改善策として、

- ① 金銭管理ということを改めて認識し、現金出金の際は、管理台帳と現金額の確認を行うよう指導を徹底する。
- ② 長期休暇前は金額の検討をし、現金通帳確認を行うことにする。
- ③ 金庫ダイアル番号を変更し、金庫の開錠ができる職員を 2 名に限定する。
- ④ こどうの家で現金を手渡しする利用者用に手提げ金庫を購入し、万が一の場合にも被害を最小限に防ぐようにする。

・地域とのかかわり

地域に根ざしたホームを目指し、12 月町内会清掃作業に参加した。

平成25年度平均利用者算定表

平成25年4月～平成26年3月（事業所・施設名 こどうの家）

番号	援護の実施者(市町村名)	利用回数													合計	出勤率
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
1	白浜町	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	100%	
2	田辺市	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0%	
3	田辺市	-	-	-	24	31	30	16	17	28	23	26	28	223	61%	
4	田辺市	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	100%	
5	田辺市	-	-	-	-	-	-	23	8	-	-	-	-	31	8%	
6	田辺市	30	27	30	31	26	30	28	27	28	27	28	31	343	94%	
7	田辺市	-	-	-	-	-	-	16	15	18	20	19	19	107	29%	
8	日高川町	30	28	29	30	30	28	28	29	22	23	28	31	336	92%	
9	上富田町	30	27	23	27	26	29	22	27	28	27	28	31	325	89%	
10	御坊市	-	-	-	-	-	12	31	28	-	-	-	-	71	19%	
11	みなべ町	30	29	30	31	29	30	28	29	28	27	28	31	350	96%	
延べ利用者数合計		180	173	172	205	204	219	254	240	214	209	213	233	2,516		
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365		
利用率		86%	93%	96%	83%	73%	91%	82%	80%	86%	84%	95%	94%	87%		
平均利用者数		6.0	5.6	5.7	6.6	6.6	7.3	8.2	8.0	6.9	6.7	7.6	7.5	6.9		

【平均利用者の算出】

延べ利用者数合計 ÷ 延べ開所日数

2,516 ÷ 365 = 6.9 87%

龍の里作業所 事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

I. 過去 5 年間の当事業所の経過

年度	期間	職員数 (常勤換算)	在籍者数	日平均 利用者数	月平均 工賃
21 年度	H21. 04～H22. 01	4 (3. 6)	16	12. 9	¥7, 684
	H22. 02～H22. 03	4 (3. 6)	18		
22 年度	H22. 04～H22. 05	4 (3. 6)	16	14. 0	¥7, 997
	H22. 06～H22. 10	4 (3. 6)	19		
	H22. 11～H23. 03	4 (3. 6)	18		
23 年度	H23. 04～H23. 08	4 (3. 6)	17	14. 2	¥6, 678
	H23. 09～H24. 01	4 (3. 6)	18	13. 6	
	H24. 02～H24. 03	4 (3. 6)	17	12. 7	
24 年度	H24. 04～H24. 08	5 (4)	16	12. 1	¥7, 848
	H24. 09～H24. 10	5 (4)	16	12. 3	
	H24. 11～H25. 03	5 (4)	15	12. 3	
25 年度	H25. 04～H25. 07	6 (5)	18	11. 9	¥6, 940
	H25. 08～H25. 11	6 (5)	17	13. 7	
	H25. 12～H26. 02	6 (5)	16	13. 8	
	H26. 03	6 (5)	15	13. 0	

II. 事業内容

1. 花苗作り、農産物の生産・加工

・花苗作りは、

昨年に引き続き、じゃがいも・さつまいも・白菜等種類を増やし、季節に応じた農産物の生産・販売を実施した。干し野菜などの一次加工は生産量が及ばず、実施出来なかった。

2. 自主製品

(ア) ケーキ・パン

西出張所の開所に伴い、職員の支援できる日数が減り、主体的に関わっていた利用者が退所したことも重なり、収益を大きく上げることができなかつ

た。

(イ) よもぎの葉

他の作業との関係で作業場を十分に確保できず、生産量を減らした結果、生産が追い付かなかった。

(ウ) 杉と和紙のコースター

特に大口の注文はなかったが、生産調整を行いながら、在庫を余すことなく、道の駅などで販売。

(エ) アクリルたわし

製造行程の難易度が高く、利用者の作業にならなかつた。その結果、他事業所へ委託を試みるも困難で、家族のボランティアに頼ることが多かった。今後継続していけるか課題が残る。

3. 地域での軽作業（便利屋）

・草刈りなど危険を伴う作業から撤退し、草引きや清掃などの請負を中心に行ったが、大幅に収益を減らす結果となり、他の作業で補う課題がでてきた。

4. 受託作業

(ア) 社会福祉協議会の「配食サービス」は職員配置や作業の効率を考え、25年度より中止した。

(イ) 下請け作業については、仕事の途切れにくい「渡辺ウッドライフの部品袋詰め作業」に積極的に取り組んだ。

5. 授産品の販売促進

・地元の道の駅などを中心に安定した販売を行うことができたが、「よもぎの葉」の在庫不足など顧客ニーズに対応できなかった。

6. 一般就労、自立に向けた支援の強化

(ア) 原付免許取得への支援は希望者がなく、実施できなかった。

(イ) 一名の利用者がグループホームへの体験実習を実施し、自立生活へ移行した。

(ウ) 「すまいる」等他事業所への体験実習は、対象者の個人的事情により実施できなかった。

(エ) 社会参加リハビリテーション事業を活用して1名の利用者が老人ホームの清掃作業等の訓練を実施し、訪問介護支援員養成講習を受講するも本人の病状悪化に伴い中断する。

7. 文化活動等の支援

(ア) 「ふれあい文化祭」での作品展示に書道の作品展示を行うが、新しい分野の開拓ができなかつた。

(イ) 「龍神温泉美人体操」の普及に協力し、朝の体操として継続的しており、ふれあい文化祭での舞台発表を予定していたが、気象状況により当日参加を

断念することになった。

(ウ) 一泊旅行（京都方面）は新規の利用者も積極的に参加し、業者の変更により例年と比べてスムーズに行うことができた。

作業種目別収益

作業種目	24年度	25年度	差
ウッドライフ	347,016	296,406	-50,610
しいたけシール貼り	23,981	50,519	26,538
委託作業	28,580	0	-28,580
よもぎの葉	91,128	89,341	-1,787
コースター	38,874	26,792	-12,082
便利屋	225,319	98,500	-126,819
花いっぱい運動委託費	149,790	171,790	22,000
配色サービス（社協）	46,900	0	-46,900
畑作業	2,010	14,247	12,237
たわし、雑巾	14,767	14,662	-105
ケーキ、パン	511,223	534,749	23,526
マッシュ実習	0	36,310	36,310
販売	134,184	133,520	-664
その他	1,243	6,700	5,457
合計	1,615,015	1,473,536	-141,479

※この表の数字は経費の按分（電気代、燃料代等）をする前のものです。

（按分は授産全体で合算したため）

Ⅲ. 地域との関わり

1. 交流グラウンドゴルフ大会、高齢者交流会での舞台発表を行うとともに翔龍祭合唱イベントに積極的に参加し、利用者が主体的に進行に協力する。
2. 自立支援法に対する請願署名活動の推進を行った。
3. 田辺市ボランティア団体支援事業を活用した在宅者への取り組み（「ほっとすてーしょん」 調理実習、いちご狩り）

いなづみ作業所 事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

これまでの経過

	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
職員数	5 名	5 名	5 名	5 名	5 名	6 名
日平均利用者数 (在籍者)	14 名	13 名	14 名	15 名	17.4 名	17.5 名
月平均工賃	14,087 円	13,912 円	11,115 円	14,461 円	14,994 円	16,144 円 (14,571 円)

※25 年度は県の指導により、作業に従事出来なかった利用者を計算に入れていません。

()内は、昨年と同条件で計算した場合の平均工賃です。

1. 就労継続支援事業について

(ア) 作業内容

便利屋、墓掃除、洗濯、洗車、若者広場トイレ掃除 (町から委託)
生協の配達、野菜作り

(イ) 自主製品

EM ボカシ、リサイクル石鹼

(ウ) その他

法人内へのリース事業 (パソコン、三輪バイク)
バザーでの販売 (せせり、飲料、かき氷、バニラシェイク等)

※売上については別紙参照

2. 利用者の生活面について

(ア) 健康面

大きな病気にかかっている利用者はいないが、高血糖、高血圧の方が数人いるので、周参見病院、訪問介護等と連携して見守っている。

(イ) 金銭面

酷く困窮している利用者はいない。社協の権利擁護事業と当事業所の預かり金システムの連携で、概ね平均的な生活が出来ている。

3・防災について

(ア) 地震・津波対策

避難指定場所である裏山の大日山までの避難訓練を実施した。

十分な量とは言えないが、水と食料と薬品を入れた非常持出袋を3つ玄関先に用意した。

(イ) 火災対策

調理器具はすべてIHにして、直火は使わないようにしている。

また、喫煙場所にはバケツに水を張り、完全な消火を義務付けている。

4. その他

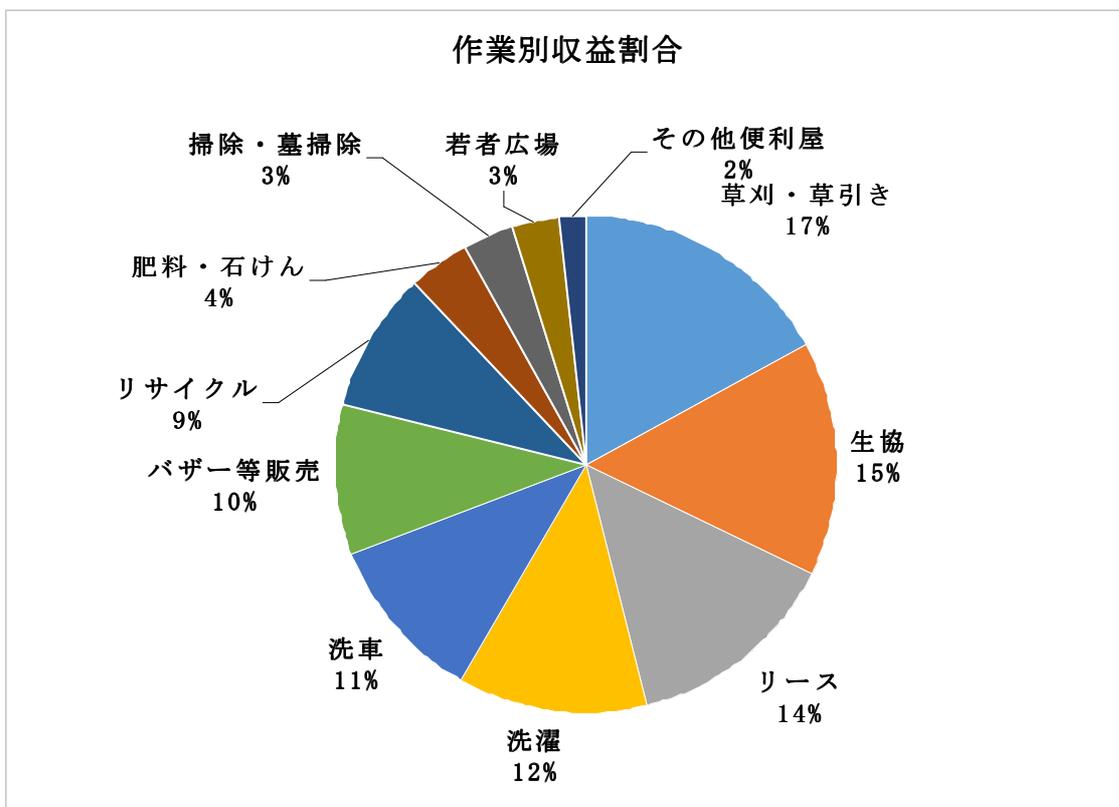
(ア) レクリエーション等の活動

- 6月 バトミントン交流会
- 6月 クリーン大作戦参加
- 7月 グランドゴルフ
- 7月 バリアフリー祭り
- 7月 熊野川 川下り
- 8月 調理実習
- 9月 ぶどう狩り
- 9月 古道ヶ丘でバーベキキュー
- 10月 アドベンチャーワールド
- 11月 カラオケ
- 12月 忘年会
- 1月 田辺市に買い物ツアー
- 2月 北海道旅行
- 2月 スポレク

別紙

作業別利益一覧

	25年度
草刈・草引き	681,771
生協	614,390
リース	567,000
洗濯	488,160
洗車	441,046
バザー等販売	392,908
リサイクル	367,235
肥料・石けん	154,870
掃除・墓掃除	138,098
若者広場	120,000
その他便利屋	70,736
合 計	4,036,214



やおき工房事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

I. 利用実績

事業種別	定員	登録者数	月平均通所率	月平均工賃
就労移行支援事業	10名	9名	9.7名	22,601円
就労継続支援事業 B型	20名	27名	16.3名	11,650円
自立訓練（生活訓練）事業	6名	7名	3.3名	

II.

活動状況

1. 作業面について

就労移行支援事業

(ア) 給食センター事業を所内訓練の中心と位置づけて、全ての利用者がかかわることができた。集中力や持続力・計算能力・協調性など多岐に渡る訓練ができた。給食センター事業も2年目を迎えたが、古道ヶ丘が外れることとなり、今年度は陽だまり・ハモニティー・かへむ・訪問介護支援センターの4事業所となった。年間総喫食数は10,446食であった。

(イ) 関係機関・家庭等と連携し職場実習へと繋げた。半日実習・インターンシップ・トライアル雇用等を活用した。実習者数は12名で内就職につながったのは6名であった。1ヶ月当たりの平均工賃額は22,601円であった。

就労継続支援事業 B 型

(ウ) 従来からの箱折り作業とともに施設外作業としてパルコ21のボール補充作業や上富田町スポーツセンターのトイレ清掃・紀伊民報での帯掛け作業等に取り組んだ。公共施設清掃で地域貢献ができたと自負している。作業にも幅が出てきている。授産事業の総売上は3,379,815円となっている。

(エ) 1ヶ月当たりの工賃の平均額は11,650円となった。今年度の目標工賃額が月額16,500円としていたので、目標工賃は達成できなかった。屋外作業の縮小化による収益の減少が大きな要因と思われる。また、利用者の増加に伴う作業量の確保も課題であった。

(オ) 今年度も売店ピュアから委託を受けて、こころの売店（紀南こころの医療センター内）にて接客訓練を行った。利用者主体で取り組める環境づくりに努め、利用者同士が協力し考え行動できるよう支援した。結果、利用者が積極的に作業に取り組み、配達業務では準備から各病棟への配達まで、利用者同士が協力し合い

行動できるようになった。接客訓練では、「ありがとうございました。」もしっかり言えるようになり、レジ打ちも声かけをしなくても利用者が自ら打てるようになっていった。作業量的には、紀南こころの医療センターの入院患者さんの減員による作業量の減少がみられた。

2. 生活面について

自立訓練（生活訓練）事業

(ア) 4月から自立訓練（生活訓練）事業を開所した。支援学校卒業生や作業所通所が難しかったり、引きこもりがちな利用者の生活訓練や社会に一步出るための場として、創作活動や生活講座（衣食住）・レクリエーション等の活動機会を提供し、コミュニケーション力をはじめ社会生活に必要な力を養うべく訓練を行った。また個々に必要な訓練を個別に行った。

共 通

(イ) 利用者自治会が主体的な取り組みができるような支援を目指したが、残念ながら就労移行利用者が就労実習等で、一同に会する機会が持てず、全体で議論する環境が作りにくかった。恒例行事を実施することに終始した感がある。印象に残ったのは12月29日の工房利用者家族に呼び掛けた暮れの餅つき会である。昨年に引き続いての取り組みだったので、よりスムーズに運び日頃交流機会の少ない家族同士の交流も図れ、参加者も大変喜んでくれた。今後も続けていきたいと思っている。

(ウ) 地域バザーへの参加は、当初の計画どおり9月の『空の日フェスタ』（白浜町）、11月の『上富田町健康祭り』、3月の『大谷文化祭』（上富田町）に参加した。『空の日フェスタ』と『上富田町健康祭り』は自由参加で少人数だったが、『大谷文化祭』に関しては全員参加で盛り上がった。

(エ) その他の余暇活動では、昨年度に引き続き紀南障害者就業・生活支援センターのワーカーズスポーツレクリエーションに就労移行支援事業を中心とした利用者が参加した。平日の夜の時間帯にもかかわらず、現在も継続している。

(オ) 利用者の生活知識向上のために、9月に開催された『職場マナー講座（職場でのエチケットについて）』に参加した。

3. 利用者支援関係

(ア) 個別支援計画は利用者主体の具体的支援目標を明確にし、実践を通して目標達成に向けた支援を行った。また定期的な見直し（就労移行支援事業は3ヶ月・就労継続支援事業B型は6ヶ月、自立訓練（生活訓練）事業は3か月を目途に）計画的に取り組んだ。

(イ) 利用者と信頼関係を確立できるよう努力すると共に、日々の状態を把握し、必要に応じて関係機関と連携した援助活動を迅速に行えるよう努めた。

(ウ) 関係機関と連携を密にし、より多くの方に利用してもらえるように努めた。就労継続支援事業 B 型では、上半期の新規利用者は 5 名であった。(内就労移行支援事業から 1 名転籍)、退所者は 1 名であった。下半期は新規利用者が 8 名で(内就労移行支援事業から 1 名転籍)退所者は 3 名であった。就労移行支援事業では、上半期の新規利用者は 4 名、退所者 3 名(就職)であった。下半期の新規利用者は 3 名、退所者 1 名(就職)であった。自立訓練(生活訓練)事業では上半期の新規利用者は 5 名、退所者 1 名(B 型へ転籍)、下半期の新規利用者は 3 名であった。

III. 残った課題

就労移行支援事業

(ア) 一人でも多くの利用者が就労にチャレンジできる機会を提供していく。今後さらに紀南障害者就業・生活支援センター等との連携を密にし、様々な就労実習制度を活用し、より多く実習に取り組んでもらえるようにしていく必要がある。

就労継続支援事業 B 型

(イ) 授産作業を B 型(軽作業・厨房附帯作業、上富田 SC トイレ清掃・パルコ 21 ゴルフボール補充作業等)、就労移行(給食センター事業・企業実習等)に機能分化させ、目的を明確化するとともに、B 型から就労移行への転向を図っていけるようにする。また工賃倍増を図っていけるようにする。

自立訓練(生活訓練)事業

(ウ) 自立訓練事業の利用者が少ないことがあげられる。関係機関等への周知を図り、生活訓練を必要とする方がより多く利用していただけるようにしていく。

(エ) 来年度は利用 2 年目を迎える利用者が出てくるので、訓練終了後の日中活動の場・生活の場を見据えた訓練が必要である。

共通

(オ) 利用者静養・休憩室の増設および、相談室の新設も望まれたため改修を実施した。事務室が土間になっており機能的に利用できないため床工事等が必要である。

IV. 行事内容

	自治会行事	開催日	参加人数	
			利用者	職員
4月	ボウリング	4月19日	22名	7名
5月	バーベキュー (マリーナシティ)	5月13日	17名	4名
	スポレク (新庄公園)	5月22日	4名	4名
	スポレク (市ノ瀬体育館)	5月29日	21名	6名
6月	中辺路美術館 芸術鑑賞	6月12日	20名	5名
7月	七夕会	7月8日	23名	4名
	スポレク (大屋体育館)	7月17日	23名	5名
8月	カラオケ	8月21日	18名	4名
9月	ぶどう狩り (サンシャイン牧場)	9月18日	20名	4名
10月	ミニ運動会&バイキング (秋津野ガルテン)	10月19日	22名	9名
	バイキング (霧の里 高原)	10月30日	22名	4名
11月	上富田健康祭	11月3日	22名	5名
	紅葉狩り&ソフトボール練習	11月13日	27名	5名
12月	お餅つき	12月28日	24名	11名
1月	新年会 (ボウリング&バイキング)	1月25日	28名	7名
2月	観梅	2月12日	21名	3名
	食事会	2月22日	28名	4名
3月	大谷文化祭	3月9日	17名	5名
	映画鑑賞	3月19日	22名	3名

すまいる事業報告書

平成 25 年度

1. 通所者年齢層 (平均年齢 37 歳)

年齢	20代	30代	40代	50代	60代	合計
女	2	2	3	1	2	10
男	9	9	5	2	1	26

2. 市町村別

市町村	みなべ	田辺	上富田	白浜	印南	古座川	串本	御坊	和歌山	日高	合計
女	6	2	1	0	0	0	1	0	0	0	10
男	9	5	1	3	2	1	0	1	1	3	26

3. 利用対象者

精神 21名	発達 11名	知的 4名
--------	--------	-------

4. 今年度の活動報告

(ア)「就労移行支援」 定員 10名 平均利用者数 7.1名

今年度は、地域での就労支援体制を構築する準備を、行政、地域事業所と連携し取り組んだ。企業内での就労訓練実習場の確保や、就労に向けての実践訓練が、協力事業所の理解もあり継続して取る組めるようになった。企業実習に出る事で、工賃アップにも繋がり、実習者の声も、直接企業実習での緊張感、従業員の指導は、仕事する意識向上に繋がる感想が、多くあった。

今年度の就職者は、就職予定者を3～5名で、就業センターと連携し、利用者2名の就労支援を行ったが、定着せず2名離職する結果であった。離職後は、訓練課題を本人と確認し、再就職訓練を、継続してすまいるで行っている。今後は、就労継続支援B型と分離した環境整備を行い、就労に向けた就労訓練場所(店頭販売等)を増やしたい。

今年度の就労移行支援事業からの就職者数 2名 (一般事業所へ)

離職者 2名

「1」 就労者の就労時間

① 20～30時間未満 (1名) ② 30時間以上 (1名)

「2」 就労者の制度利用・職業訓練実績

・インターンシップ事業 1名 ・チャレンジ雇用事業 1名

工賃実績

年度	23年度	24年度	25年度
月平均工賃	13,766	16,121	22,541

(イ)「就労継続支援 B 型」 定員 20 名 平均利用者数 18.2 名

授産内容の見直しを前年度より行い、授産収入の柱になっていた請負作業だけでなく自主製品販売の収入も伸び、年々少しずつだが、平均工賃もあがっている。新しく公園清掃、シール貼り、自主製品販売等、参加出来るメニューを増やし、地域に出向いていく機会をつくった。作業が増えた事で、通所者の作業意識にも変化があり、安定した通所に繋がる利用者も増えた。2月の観梅時期は、工賃アップ目標の強化月間とし、地域販売を、利用者、職員全員で取り組んだ事で、仕事の協調性、楽しさを共有し、利用者の工賃アップと、来年度の目標工賃加算の達成に繋がった。

今年度の就職者は、就職予定者 1 名で、就労訓練に取り組んだが、遠距離通所の問題等もあり就労に繋げる事が、出来なかった。来年度も、生活拠点の問題改善を行い、関係機関との連携を取りながら継続して就労支援に取り組み、就職と、就労定着を目指していく。

今年度の就労継続支援 B 型の就職者数 0 名

「1」就労者の制度利用・職業訓練実績

- ・社会参加リハビリテーション事業 4 名

*1 名は、就労移行支援へサービス変更し、就労を目指す。

2 名は、請負作業での就労訓練を継続。1 名は、退所。

工賃実績

年度	23 年度	24 年度	25 年度
月平均工賃	11,152	14,146	14,450

バザー参加報告

4 月 12・13 日	あきんどカーニバル (みなべ小学校前)
6 月 30 日	ベアーズ (紀南文化会館)
7 月 21 日	こころきらり (ビッグ U)
8 月 4 日	堺こども祭り (堺漁港)
9 月 16 日	こころきらり (ビッグ U)
9 月 23 日	ハッピーマンデー (ビッグ U)
10 月 6 日	はまゆう支援学校体育祭 (はまゆう支援学校)
11 月 17 日	はまゆう支援学校文化祭 (はまゆう支援学校)
12 月 15 日	ベアーズ (紀南文化会館) 店頭販売(よってって田辺店)
2 月 16 日	ふれあい文化祭(ハナヨアリーナ)
2 月中	観梅販売(ウメタ・ほんまもん)
3 月 2 日	ベアーズマルシェ(ビッグ U)
3 月 16 日	福島復興イベント(田辺扇ヶ浜カッパーク)

(ウ) 生活訓練

「就労移行支援・就労継続支援 B 型」

自立訓練の基礎訓練として、個人の生活状況の把握を行い、自立していく為に必要な支援を本人、家族と一緒に話し合いを行い取り組んだ。

具体的な支援内容は、日々の確認表を活用し、家族とも日々状況把握を行い本人の様子を共有し、本人の意識付けを図る為、毎日の振り返りを行った。家族との連携を取る事で、本人の家での様子を把握する事も出来、就労を目指す方は、法人内での施設利用（グループホーム体験等）してもらい本人の生活状況把握に努めた。また、月 1 回 SST 訓練で、職場マナー講座基礎訓練を行い、就労意欲の向上に繋げる取り組みを、日々の実践で行った。利用者も個々の課題として取り組み、定期的な振り返りを行う事で、個々の成長が見受けられた。

(エ) 自治会活動

自治会活動は、利用者全員で話し合いの場を持ち、1 人 1 人が意見が出せる工夫を行い、利用者と一緒に立案、計画、実行する支援を行った。

レクリエーション報告

4 月 1 日	花見 (みなべ町 島ノ瀬ダム)
4 月 26 日	潮干狩り (みなべ町 森の鼻)
5 月 29 日	くちくまのチャレンジデイ (上富田 市ノ瀬体育館)
6 月 6 日	歓迎会 (すまいる)
6 月 28 日	カラオケ (みなべ町 F)
10 月 8 日	リレーウォーク (みなべ町 ふれあいセンター)
10 月 9 日	買い物 (田辺市 パビリオンシティ)
11 月 2 日	グランドゴルフ大会 (みなべ町 共和球場)
11 月 28 日	橋杭岩・くじら博物館 (串本町・太地町)
12 月 11 日	カレー・サラダ・プリン調理実習
12 月 25 日	(みなべ町 ふれあいセンター) クリスマス会 (みなべ鹿島ホーム)
1 月 6 日	初詣(みなべ町 須賀神社)・茶話会(田辺市 ガスト)
1 月 7 日	餅つき (すまいる)
2 月 12 日	観梅 (みなべ町 みなべ梅林)
2 月 20・21 日	旅行 (大阪)
3 月 26 日	送別会 (すまいる)

(オ) 相談事業

前年度から計画相談を行い、今年度新規での相談者は、16 名であった。前年度は、26 名の相談者で、継続してモニタリング、計画作成等を行い継

続している。相談内容は、在宅から施設利用、在宅への訪問希望が多く、計画をたてサービス利用する事で、生活リズム、食事、健康面の安定に繋がり、生活の充実が図れていると相談者からの感想が、多くあった。その他、成年後見制度利用が、1件あった。

来年度は、さらに新規相談者が増える為、相談業務が円滑に出来る体制作りを、行政、他計画相談事業所とも調整しながら、整理していきたい。

(カ) その他の活動

近年、防災対策として、日頃から取り組んでいる事は、不定期であるが、緊急時の避難場所(猪ノ山)に散歩する機会を設けている。年に3回だけの訓練では、利用者の歩く速さ等も把握する事も出来ない、逃げるのが遅い人に出来る助け方等、日頃から利用者の状態を観察し考えていく必要性を強く感じる。みなべ町防災訓練も、地域の方と一緒に参加し緊急時に備えている。今年度は、非常時の備蓄食、ライフジャケット等を購入し、備蓄材料の保管場所を、出来るだけ高い場所に保管させて欲しい希望を、地域にお願いしている。

そして、地域の古着回収場として、年々古着を持ってきて下さる方も増えており、利用者も地域の方と交流する機会が増えた事で、挨拶、接客にも慣れてきた様子が伺える。

今後も、地域密着の色々な取り組みを、行政、地域の方と一緒に考え活動し、活性化を図っていきたい。

みなべ鹿島ホーム・サンフラワー事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

前年度より、世話人 3 人を配置し、事務処理と利用者の生活の安定を図る支援を行い、休日の自立訓練（掃除、片付け、買い物、料理等）を世話人と一緒に取り組むことで自立に向けての意識向上と、金銭管理（収入の範囲内でお金を使う事を、前提に話し合いを持ち、金銭管理する）を本人に返していく支援、入居者 1 人 1 人にあった細かい支援を継続して取る組む事が出来た。来年度は、みなべ鹿島の移転に伴い、入居者 8 名の、自立生活の希望を聞き、単身生活、GH 継続等、個々のサービスにあった支援を、移転後も、引き続き地域密着支援で継続していく。

みなべ鹿島ホーム・サンフラワー利用実績表

職員体制

世話人	サビ管
3 人	1 人

利用者数

合計	男	女
13 人	9 人	4 人

利用者の 年齢

合 計	20 代	30 代	40 代	50 代
13 人	7 人	3 人	2 人	1 人

月別 利用者数 出身市町村

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
13 名	12 名				
みなべ町 田辺市 和歌山市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町	みなべ町 田辺市 和歌山市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町	みなべ町 田辺市 和歌山市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町	みなべ町 田辺市 和歌山市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町	みなべ町 田辺市 和歌山市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町	みなべ町 田辺市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町

10月	11月	12月	1月	2月	3月
12名	12名	12名	12名	12名	12名
みなべ町 田辺市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町	みなべ町 田辺市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町	みなべ町 田辺市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町	みなべ町 田辺市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町	みなべ町 田辺市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町	みなべ町 田辺市 古座川町 すさみ町 白浜町 串本町

「单身生活移行者実績」

- ① 平成20年3月 单身生活 男性 (精神)
 施設通所 (すまいる)
 GH 入居期間 (約 1 年 1 ヶ月)
 单身生活歴 (6 年)
- ② 平成 21 年 4 月 单身生活 女性 (精神)
 一般就労
 GH 入居期間 (約 9 ヶ月)
 单身生活歴 (5 年)
- ③ 平成 22 年 4 月 单身生活 男性 (精神)
 一般就労・施設通所 (すまいる)
 GH 入居期間 (約 2 年 10 ヶ月)
 单身生活に移行 (平成 23 年 3 月 19 日)
 单身生活歴 (3 年)
- ④ 平成 22 年 4 月 共同生活 男性 (精神)
 就労継続支援 A 型事業所就労
 GH 入居期間 (約 3 年 8 ヶ月)
 共同生活歴 (3 年)
- ⑤ 平成 24 年 4 月 单身生活 男性 (知的)
 一般就労
 GH 入居期間 (5 年)
 单身生活歴 (2 年)
- ⑥ 平成 24 年 10 月 单身生活 男性 (精神)
 一般就労
 GH 入居期間 (6 年)
 单身生活 (1 年半)

紀南障害者就業・生活支援センター事業報告

平成25年度 やおき福祉会

【実績数】登録者数 193名（内新規34名） 相談件数 4302件
職場実習 66件 就職者数 24名
23年度就職者の定着率 就職後6ヶ月経過 93.1%（27人／29人）
就職後1年経過 75.8%（22人／29人）

所長 1名
主任就業支援ワーカー 1名
就業支援ワーカー 1名
生活支援ワーカー 1.5名（0.5兼任）

ジョブコーチ 3名（2名体制1月より）

今年度については昨年度の障害者雇用率改正後と言うこともあり就職者件数について伸び悩みを懸念していましたが、訓練を経ての就職者について先の報告のとおりとなります。以後の定着支援については通常通りジョブコーチ事業との連携で行ってききましたが、今年度の退職者については2年以上の勤務者が多い状態です。ジョブコーチの支援期間が終了した後も不定期での訪問、生活支援でのセンター来所を継続していますが、一定期での不調、高齢、単独就労での孤独感、生活面での不安定から来る自傷行為、就労意欲減退などが理由で退職に至っています。短期での離職者については短時間ではあるものの就労形態と当事者の状態のミスマッチもあり今後は見極めについてより深く検討していくこと、実習を経た際の雇用への対応を改めて検討する事が必要であると考えます。

一般高等学校新卒業者については、障害受容への時間が必要であることから、支援者側との関係性の構築に重点をおき、他の当事者と同等の対応を行えるように心がけてきました。しかしながらセンターを離れる方もおられました。

現状では、働く1歩手前の方や就職・実習直後に調子を崩し就労、定着に至らないケースもあります。事前の訓練は行っていますが、金銭的な問題や当事者のニーズ・企業からの要望もあり短期での就職を検討しなければならないこともあるため訓練期の対応について今後の課題と考えています。

紀南地域活動支援センター（Ⅲ型） 事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

I. 事業経過

相談センターの改変に伴い、I型事業をⅢ型として田辺市より受託し、紀南障害者就業・生活支援センター（以下・センター）敷地内にてプレハブを設置し運営を開始した。以前より「施設を利用しない当事者」のセンター通所があり、この方々を当初の地域活動支援センター利用者としてきた。また、短時間就労者の居場所としても活用を促し、憩いの場として確立している。

下半期では、センター相談者の一部が地域活動支援センターを利用し未就労者の集まる場所にもなってきた。この集団から障害者委託訓練にて、講座を開催し、職場実習への斡旋・就職支援を行う。未就労者の居場所の確保としては確立してきたが、活動自体に生産性が低い企業より内職の受託（ルアー製造補助）、自主製品の缶バッチについて営業を強化する。これにより一部の利用者の工賃の確保にも繋がり数名の安定通所が見られた。

II. 職員体制

管理者 1名（兼任） 支援員 1名（専任）

III. 利用の実績

（ア）月別平均利用者

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
登録者数	9	12	16	17	17	17
開所日数	21	21	20	22	17	19
平均利用者数	4.14	4.57	6.20	7.23	7.76	6.95

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	13	12	10	12	13	16
開所日数	22	20	19	19	19	20
平均利用者数	5.18	3.65	3.47	4.74	4.89	5.5

（イ）市町別

田辺市	みなべ町	上富田町	すさみ町	白浜町
19人	1人	3人	0	0

（ロ）障害別

知的	精神	身体	発達	その他
7人	11人	3	0	2人

（ハ）年齢別

～20歳	20代	30代	40代	50代	60代
5人	8人	6人	2人	2人	0人

（ニ）その他

サンヒルズ 事業報告書

平成 25 年度 やおき福祉会

I. 運営概要

サンヒルズ (主)・クローバー (従)・オレンジ (従)・ユースセブン (従)

サンヒルズを主とし定員 20 名、職員配置 4 : 1 での支援を行ってきた。

ユースセブンを開所し、支援学校卒業生の受け入れと遠方の施設利用者の受け入れを行ってきた。ユースセブンの利用者については週末の帰省が多く利用率が低い状態であり、自立には時間のかかる当事者が見られた。この状況により職場でも不適應を起し離職につながるケースもあった。また社会経験の低さ、遠方からの利用者のため地域社会資源の活用ができない方もおられ、体調不良等の場合に適宜支援を要し、昼夜・休日を問わない支援も数回発生した。

日中は各通所施設、紀南障害者就業・生活支援センターとの連携により活動の把握を行い、余暇活動なども就業センター自助グループ「ワーカーズ」への入会と支援を行ってきた。

設立当初より目的であった「地域での生活」については今後等グループホームで経験したことを活かし、単身生活への移行を勧めていく当事者について検討していくことになる。

II. 利用実績

平成 26 年 3 月現在

職員数

世話人
5 名

利用者数

利用者数	男性	女性
18 名	16 名	2 名

利用者の年齢

合計	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
18 名	3 名	2 名	5 名	3 名	5 名	0

